



2025,03,11

No. 204

## 東日本大震災より14年… 歴史的事実を風化させず、未来へ継承していこう！



2011年3月11日14時46分に発生した、宮城県沖を震源とする観測史上最大のマグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震と大津波、それに伴う福島第一原発事故という未曾有の複合的災害の「東日本大震災」から14年が経過しました。この災害により、死者15,900人、行方不明者2,525人が被害に遭い、そのほとんどが津波によって犠牲となりました。そして先月26日に発生した大船渡市での大規模山火事は今月10日ようやく火災の「鎮圧」が宣言されましたが210棟の建物に被害が出ていると報道されています。地震・津波・台風・火災など自然災害を前にしては人智の及ぶところではありません。私たちにできることは「備えていく」「助け合う」「未来へ継承していく」ことではないでしょうか。

今後30年以内に確実に発生すると言われている首都直下地震をはじめ、南海トラフ巨大地震はこれまでの想像を超える規模で発生することが予測されています。そのために「備えていく」ことです。自分の居住地域のハザードマップ、備蓄品を含めた災害時持ち出し品、家族の安否確認の方法、避難場所などの確認と点検を行い、いざという時に行動できる準備に努めることが必要です。そしてややもすれば“今だけ・金だけ・自分だけ”になりつつある現代社会において日常的に周囲の人を気に掛け、困っているときに自然と「助け合える」関係が大切であることも私たちが未曾有の震災を目の当たりにして実感したことです。東日本大震災では線路、駅設備をはじめとする多くの鉄道関連施設も被害を受けました。だからこそ震災の教訓は今も語り継いでいかなければならないこととされています。しかし、会社が進めるワンマン施策はこうした教訓が活かされ、いざというときに運転士ひとりでも利用者を安全に避難誘導できる体制となっているのでしょうか。東日本大震災を経験した私たちが具体的に今できることを行動していくことこそ「未来へ継承していく」ことと言えます。



### 東日本大震災から14年、今こそ立ちどまって考える時ではないでしょうか